

なぜ保存するのか

日本における町並み保存運動の勃興とその意味

Why Place Matters: A Sociological Study of the Historic Preservation Movement in Otaru, Japan, 1965-2017 出版記念

都市環境における「変化」は、社会的にどのようにコントロールされているか——本報告の問いは、この一文に集約することができる。都市環境は日ごとに変化して止まることがない。変化し、新しくなることは善きことと見なされている。だがその一方で、同じ都市環境を保存せよと叫び、運動する者たちがいる。両者のせめぎ合いを経て、都市環境はいかに変化する／しないのだろうか。本報告は、小樽運河保存運動を事例にした変化の社会的制御過程の社会学的解明である。それは、建築学や都市計画学が扱ってきた「町並み保存」「歴史的環境保存」というテーマを、社会学の視点からとらえ直すということだ。

講演

14:00-15:00

堀川 三郎

法政大学社会学部教授
南京大学社会学院客員教授

ディスカッション

15:00-15:30

司会: 高田 圭

法政大学国際日本学研究所専任所員

コメンテーター: 米家 志乃布

法政大学国際日本学研究所兼担所員
法政大学文学部教授

2021年11月27日(土)

14時~15時30分

法政大学市ヶ谷キャンパス
ボアソナード・タワー26階A会議室

参加無料・事前申込制

<https://forms.gle/vb4XZKPcAcswK6ar9>

・参加ご希望の方は事前申込をお願いします。
・「オンラインのみ」または「オンライン併用」に変更する可能性があります。

